

論文内容要旨

A Study of the Structure of Japanese University Students' Awareness of Long-Term Care Socialization

(大学生に対する介護の社会化への意識の構造に関する研究)

Healthcare, 9(9): 1106, 2021.

主指導教員：中谷 久恵教授

(医系科学研究科 地域保健看護開発学)

副指導教員：折山 早苗教授

(医系科学研究科 基礎看護開発学)

副指導教員：松本 正俊教授

(医系科学研究科 地域医療システム学寄附講座)

彭 徐鑫

(医系科学研究科 総合健康科学専攻)

【緒言】

日本は急速に少子高齢化が進んでおり、2018年の65歳以上の老年人口割合は28.6%で世界第1位であり、15歳未満の年少人口の割合は12.2%となっている。長期介護問題は深刻化し、介護保険への要求が高まると共に、家庭、社会及び政府の経済的負担は重くなりつつある。合計特殊出生率が低下傾向にあり、主に20代、特に24歳以下の若者にとって30年以後の2055年には、肩車式で高齢者を支える立場となる。高齢化は世界的にも共通する課題であり、数十年先での介護を担う世代の意識を把握し、介護保険が制度化された日本の青年層の意識から学ぶことで、家族の介護負担の軽減や、社会が介護を担える仕組みづくりが必要である。本研究では、介護を継続させていくために若い世代がどのような意識を持っているかに着目し、介護の社会化への意識の構造を明らかにすることを目的とした。

【方法】

A県にある2大学の大学生を対象とし、Webに記入してインターネット調査を2回実施した。1回目の調査は探索的因子分析を検討するために432人の学生を対象とし、2020年9月から11月まで実施した。2回目の調査は確証的因子分析を検討するために263人の学生を対象とし、2020年12月から2021年6月まで実施した。調査内容は、属性（性別、年齢、学部）と作成した介護の社会化への意識の尺度原案である。本研究での操作的定義として、「介護」とは「食事・保清・排泄・掃除洗濯・服薬など、療養上必要な生活のお世話」とし、「介護の社会化」とは「親やあなたが介護を受ける状態になったときのあなたの考え」であることをアンケートに記載した。

分析方法は、探索的因子分析によって抽出し、構成概念妥当性は確証的因子分析によって検証した。尺度としての信頼性はCronbach's α 係数を求め、基準関連妥当性は、介護における社会福祉政策の重要性についての考えを尋ねて検証した。データ分析にはSPSSバージョン27とAMOSバージョン27を用いた。本研究は、広島大学疫学研究倫理審査委員会（許可番号E2020-2188）によって承認を受け、実施した。

【結果】

1回目調査では209名（48.4%）の学生の回答を分析し、2回目では149名の学生（56.7%）の回答を分析した。1回目の調査では、参加者の性別は男性56名（26.8%）と女性153名（73.2%）であり、平均年齢は 20.06 ± 1.49 歳であった。学部では、医療系学部の学生が120名（57.4%）であり、医療系以外の学生が89名（42.6%）であった。2回目の調査では、参加者の性別は男性34名（22.8%）と女性115名（77.2%）であり、平均年齢は 20.03 ± 2.45 歳であった。学部では、医療系学部の学生が112名（75.2%）であり、医療系以外の学生が37名（24.8%）であった。

介護の社会化への意識の尺度項目は、1項目（ $M=4.57$, $SD=0.751$ ）において天井効果が見られ削除した。項目間相関では $r < 0.2$ 以下の2項目（項目11： $r=0.139$, $p=0.045$ ；項目15： $r=0.175$, $p=0.011$ ）を削除した。探索的因子分析により、介護の社会化に対する

意識は【家族を介護する時の介護負担】【家族介護を社会に任せる感情】【家族の一員として介護する責任感】の3因子10項目が抽出された。全体のCronbach's α 係数は0.774であった。各因子のCronbach's α 係数は0.845、0.729と0.674であった。

確証的因子分析は、探索的因子分析から得られた因子構造を検討した。適合度モデル指標は、 $\chi^2/df=1.973$ 、GFI=0.908、AGFI=0.871、CFI=0.918とRMSEA=0.081であり、介護の社会化への意識の構成概念妥当性を検証した。介護の社会化への意識尺度全体と介護における社会福祉政策の重要性についての考えには $r=0.296$ ($p<0.01$)の弱い相関が得られた。

【考察】

介護の社会化への意識の構造は、確証的因子分析での適合度モデル指標であるAGFIがやや低く、RMSEAがやや高かったが、概ね許容範囲内であった。介護の社会化の構造には【家族を介護する時の介護負担】が含まれており、介護負担の軽減が介護の社会化への意識を促進する可能性が示された。また、【家族介護を社会に任せる感情】と【家族の一員として介護する責任感】では、家族を介護する責任や伝統的な強い親孝行の義務感が、介護の社会化への意識にネガティブな影響を受けていることを示していた。

介護の社会化への意識の項目はCronbach's α 係数および基準関連妥当性の結果から妥当性と信頼性を検証した結果、尺度としては今後も信頼性、妥当性をさらに検討していく必要性も示唆された。

本研究は、質問項目の構造から若い世代の介護の社会化への意識を把握することで、介護保険制度の改革や推進に貢献できるものとする。